

矢作川流域圏懇談会通信

R5 川部会編 vol.1



発行日：令和5年6月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第62回川部会WGを開催しました！

第62回川部会WGは、令和4年度の活動成果と今年度の活動目標・活動計画について話し合いました。また、矢作川流域治水プロジェクトの進捗状況、バスツアー計画、中部いい川づくりWS等について情報共有を行いました。



日時：令和5年6月20日（火）13:30～16:45

会議場所：豊田市崇化館交流館 大会議室

参加者：23名（内オンライン参加5名） ※事務局を含む

◆主な会議内容

1. コロナ禍における矢作川流域圏懇談会の開催方針



新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後の流域圏懇談会の実施方針について、『感染対策は個人の選択を尊重し、自主的な取組みとする』ことを基本とした対応や、オンライン会議での基本ルールを確認しました。また、今年度最初のWGであることから、矢作川流域圏懇談会の設立趣旨・規約等について確認を行いました。

2. 令和4年度の活動成果と今年度の活動目標とスケジュール



令和4年度の活動目標と活動成果について、①本川モデル・②支川モデル・③地域連携モデルの3つのテーマの実施状況が報告されました。令和5年度は、①河道に関する課題（本川・支川）・②流域に関する課題・③交流・共有に関する課題の3つのテーマについて、「流域治水を軸に山・海・まちをつなぐ河川としての役割を認識し、他部会や外部団体を巻き込みつつ、行政や市民団体などが参加したくなるような部会を創造する」を目標に活動を進めていきます。

3. 情報共有・意見交換



(1) 矢作川流域治水プロジェクトの進捗状況

豊橋河川事務所が進めている矢作川流域治水プロジェクトの進捗状況について、事務局より報告されました。本プロジェクトでは、「氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策」「被害対象を減少させるための対策」「被害の軽減、早期復旧・復興のための対策」について、国、県、関係市町村が連携・役割分担しながら対策を進めていきます。

(2) ヨシ植え体験会 in 矢作川 参加報告

矢作川環境技術研究会の野田賢司氏より、2022年6月18日に実施された「令和4年度ヨシ植え体験 2022ヨシ植え体験会 in 矢作川」から、ヨシ植え作業、生きもの観察、地形と植生の関係、川ごみの状況等について報告されました。

(3) 市民部会発の勉強会（バスツアー）について

矢作川流域勉強会のバスツアーは、9月13・14日の2日間日帰りで計画しています。大学生など次世代を担う若い世代の参加など対象の拡大を検討していきます。

(4) 中部のいい川WS・新郷瀬川エクスカーショ

愛知・川の会の近藤朗氏より、昨年開催された「中部のいい川WS in 天竜川流域」の報告と、2023年の矢作川でのWSについて説明がありました。また、矢作川でのWSにおけるエクスカーショの参考として、5月21日に開催された新郷瀬川エクスカーショについて報告がありました。今後は、矢作川でのWSについて、流域圏懇談会の参加や連携等について具体化していく予定です。

(5) 川部会の活動計画について

事務局より、今年度の川部会の活動計画について説明されました。活動の内容等については、次回8月のWGで具体化していく予定です。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ➤回答)

●令和4年度の活動成果と今年の活動目標とスケジュール

- ・海底湧水は栄養があって、透明度が高い。水がしみ込むような土づくりが大事。「生きものの棲みやすい川づくり」の中に地下水環境の視点を共有していきたい。(井上)
- 我々が見ていない地下水の流れは、量も多く、関心を持っていくことが必要と思う。(内田)
- 本川・支川の水がどうなっているのか。土砂の他に、地下水の問題もあることを加えておきたい。(鷺見)
- ・「山や川で不要となった土砂を海で活用」と記されているが、土砂というものは山や川で不要ではない。(内田)

●矢作川流域治水プロジェクトの進捗状況

- ・「下水道施設の耐水化」とあるが、具体的にはどのような事業なのか？(内田)
- 水位が上がっても排水できる施設の整備を進めていく。(蔭山)
- ・「被害対象を減少させるための対策」は河川の管轄外で進めていくことになる。検討している事例などあれば早めに共有していただきたい。(鷺見)
- ・「被害対象を減少させるための対策」は河川管理者のノウハウだけではできないと思う。地域と共に考えていく必要がある。(三ツ松)

●市民部会発の勉強会(バスツアー)について

- ・鵜の首のところで、豊田市街地の浸水想定について説明していただきたい。(鷺見)
- ・学生の参加については、強制で参加させるとか、人数とかは考えない方がよいと思う。(近藤)
- 3年生の参加は可能と思う。希望者を募るという形の方がよい。(鷺見)
- 強制はしたくない。地域周辺の様々な所に呼び掛けるなど。興味がある方に参加していただくほうがよい。(溝口)
- 「これはどういう意味があるのか」ということから伝えることが必要と思う。(三ツ松)
- 先生が強制的に参加させるのは避け、自主的に来たいという学生を集める方向で進める。(内田)

●中部のいい川WS・新郷瀬川エクスカーショ

- ・中部のいい川づくりWSを12月頃に矢作川で開催ということだが、日程などの候補はあがっているのか？(内田)
- 内容等はまだ決まっていない。日程は岡崎市の会場が土日で空いているかどうかで決まってくる。(近藤)
- ・流域圏懇談会として何をするかを考えていただきたい。まずは実行委員会に入っていただきたい。(近藤)
- 主体となる部会について。市民が主体であるなら市民部会、川の話しが軸になるなら川部会となる。(鷺見・内田)
- 流域治水については河川管理者だけで話しをするのはよくないと思う。全ての部会が共有する必要があるので、それも踏まえて考えていただければと思う。(近藤)
- ・エクスカーショについて。新郷瀬川では20人くらいの少人数で川づくりについて考える場ができた。これを他の川でもやってみたい。2008年の8月末豪雨は乙川・幸田川で災害があった。2008年から15年経っているので、矢作川でのエクスカーショに取り込みたい。また、河川管理者と共に学ぶことが重要と思う。(近藤)

●川部会の活動計画について

- ・活動計画としては、具体的な情報提供やテーマが一つあって、それと今回先送りした事項を議論するとよい。(内田)
- 豊橋河川事務所としてはハザードマップ等の取組、自治体の取組などを紹介しながら、課題・テーマに繋げていければと考えている。(蔭山)
- 外部団体なども含め、水を利用してきている人たちを巻き込めるとよいと思う。(光岡)
- ・農業団体や土地改良区、市町の担当者などと議論できるとよい。(内田)
- ・次回WGでは、①本日の積み残し事項の検討、②水を使っている人や市町村の担当など水を使う人や自治体の方との勉強の場の設定を予定とする。(内田)

今後の予定

■川部会WG 日時：令和5年8月22日(火) 13:30~16:00 場所：豊田市崇化館交流館 大会議室

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 蔭山、建設専門官 宮本、技官 松田
TEL 0532(48)8107

*矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所流域治水課(cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp)までお送りください。